

会長挨拶

全国研究協議大会東京大会を終えて

会長 古矢 美雪(東久留米市立第五小学校長)

昨年の7月31日・8月1日、全国公立小・中学校女性校長会は、第75回全国研究協議大会を、ここ東京恵比寿のウェスティンホテル東京を会場に行いました。ご来賓の皆様をはじめとして、全国各地から約700名の会員の皆様、東京都公立学校退職女性校長会の皆様、都内の副校長先生・主幹教諭の先生方も合わせると、総勢約850名の皆様方にご参加いただきました。まずは、心より厚く御礼を申し上げます。



大会主題「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る 子供を育む学校教育の推進」を受けて東京大会の副主題は、「～多様性を認め合い 持続可能な社会の創り手として 未来を創造する力を育む学校経営～」と設定しました。1日目の文部科学省初等中等教育局視学官の藤野敦先生のご講演、株式会社サンリオエンターテイメント代表取締役社長の小巻亜矢様の記念講演に引き続き、2日目には各分科会において、大会主題及び副主題に迫る活発な意見交換がなされました。

変化のスピードが加速度的な現代において、一人ではなく多様な他者と協働しながら主体的に課題解決に立ち向かい新たな希望を創造する力は、これからを生きる子供たちに、ぜひとも身に付けてもらいたい力です。2日間の研究協議会を通して、私たち校長は、自らの見識や先見性、創造力を更に磨き、揺るぎない経営ビジョンに基づいて教職員の能力を最大限に生かしながら、自身のリーダーシップを今まで以上に発揮していく使命を実感しました。そしてこれを、会場にお越しくくださった皆様、オンラインで参加してくださった皆様と共有することができたことを、とても嬉しく思います。

結びに、今回の大会が、首都東京、国際都市東京での開催であったということについても、本会としてはとても大きな収穫であったと受け止めております。今後も本会は、全国各地の女性校長の皆様と手を携えながら、力強く前へ進んでいく所存でございます。今後ともよろしく願いいたします。

東京都教育庁人事部との情報交換会

副会長 小川 真由美(日野市立日野第一小学校)

10月22日、人事部の皆様と情報交換会を行いました。これは、女性管理職を育成するにあたり、学校現場において女性が活躍しやすい条件や環境をつくっていくことを目的とし、毎年実施しています。今年は古矢美雪会長をはじめ、役員、相談役5名が参加しました。

内田康予副会長より、今年度、都女性校長会が実施した1～3年次の教員を対象にしたアンケート調査の結果概要をお伝えしたのち、それを基に人材育成に係る内容について情報交換を行いました。

調査結果から、同じ経験年数でも、年代、男女、校種による違いが大きく表れたり、ChatGPT等のAIサービスを活用していたり等、興味深い結果となっている項目を中心に、現場の実態にも触れながら意見を交換することができました。また、人事部からは管理職候補者を増やすための東京都の取組みや学校支援についてのお話をいただきました。

女性管理職の育成だけにとどまらない幅広い人材育成に関わる事柄について話をする中で、成果や課題について共有することができ、大変有意義な情報交換会になりました。

令和7年度 東京都公立小・中学校女性校長会運営方針

東京都公立小・中学校の女性校長会は、昭和40年度の東京都公立学校女性校長会の設立後、平成8年の分離を経て、平成30年度再度小・中の女性校長会を統合し、8年目を迎えた。

設立以来、義務教育の充実・発展に努めるとともに女性管理職の能力開発や地位向上を目指し、たゆみない研修と実践を積み重ねてきた。これまでの実績は高く評価されるものであり、諸先輩のご尽力とお導きに改めて敬意を表する。

学校は、4年間にわたる感染症対策のもと教育活動を進め、一人一台端末に代表されるGIGAスクール構想の実施、オンライン授業の実現などの教育環境の大きな変化に対応してきた。

ICT環境の変化に伴い、学校内の事務もデータを基に進めることが増え、会議や研修、保護者会等でもICTを活用することで資料の提示が簡便になるなど、働き方改革も進んできているという実感がある。また、それまで当たり前と思っていた学校行事についても見直しが図られ、学校教育の在り方について新たな方向性が見えてきていると言える。

こうした背景の中、未来を担う子供たちには、持続可能で多様な社会の創り手として、また、国を超えて平和を創り上げることができる成人としての資質を確実に備えてもらいたいと考える。

したがって、本会には、時代、教育制度、人事制度、管理職の組織への意識、さらには新たなリスクマネジメント等の変化に対応し、女性校長会の組織の在り方や運営を、次の視点で充実させていくことが求められている。

(1) 9年間の義務教育を考える時代への対応

学校教育法、学校教育法施行規則の一部改正、学習指導要領の改定では、義務教育学校の設置、小学校及び中学校における教育との一貫性に配慮した教育課程の編成の拡大、学校間の連携や交流等が明示された。各市区町村では、多様な小中一貫教育の増加に伴う異校種間の管理職人事異動や、小中学校教員の兼務発令などが増加している。

(2) 女性管理職登用への推進と支援

令和6年度公立学校教職員の人事行政状況調査によると、教育管理職(校長・副校長・教頭)における女性の任用率は一番高い富山県の43.2%となっており、また、全国平均では、約24%と昨年度より1%強増と過去最高の割合を更新している。しかし、東京都においては、約24%と全国平均と同じ任用率であり、横這い状態が続いている。副校長も含めた女性管理職の登用への継続的な働きかけが求められている。

(3) 持続可能な組織運営の充実

基本的な感染症への対応は継続しつつ、様々なことに配慮した運営を行うとともに、すべての人のウェルビーイングの向上を目指し、働き方改革を踏まえた効率的で効果的な開催についても検討し、実現を図っていく。そのために、引き続き、情報ツールを生かし、会議方法、連絡・周知方法等の活用と工夫により、一層の効率化を図り、持続可能な組織運営を具現化する。

今、ここに社会情勢、教育界の変化、女性校長会組織の課題や期待に対応できる持続可能な組織創りを不断なく行い、今年度の東京大会の運営と連携しながら、令和7年度は、以下の運営方針をもって取り組む。

運営方針

- 1 今年度7月31日(木)と8月1日(金)に東京都で開催される「全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会・東京大会」に向けて協働で準備にあたり、大会を成功させる。
- 2 義務教育のパートナーとして、会員相互の校種を理解し、協働することによって、9年間の義務教育の学びを共に考え、質の高い教育の実現により義務教育の充実に寄与する。
- 3 学び合い、高め合う組織として、経営視点での学校経営研究会を充実させ、会員相互に、管理職としての学校経営能力や資質・能力を高める。
- 4 男女共同参加社会の実現に向けて、自ら社会進出のロールモデルとなり、活躍する場を広げ、女性管理職の能力開発と地位向上並びに人材育成に努める。
- 5 持続可能な組織の構築を具現化するために、効率的な運営と組織力の向上に努めながら、組織の強化と活動の充実を図る。
- 6 HPの開設、広報誌の配布や関係機関・関係団体との交流により、本会の活動の理解、女性の管理職の育成と登用についての普及に取り組む。また、本会の会員で組織する退職校長会や女性管理職及び女性教員等の関係組織との連携・交流を図る。

令和7年度 東京都公立小・中学校女性校長会 総会

令和7年5月18日(日)

於:東京ガーデンパレス 天空の間

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 開会の言葉 | 7 新会長挨拶 |
| 2 会長挨拶 | 8 新役員紹介 |
| 3 来賓挨拶 | 9 議 事 |
| 4 来賓祝辞・紹介 | (1)令和7年度 運営方針審議 |
| 5 「人材育成に関する管理職の意識調査」結果報告 | (2)令和7年度 事業計画審議 |
| 6 議 事 | (3)令和7年度 予算審議 |
| (議長選出) | (4)その他 |
| (1)令和6年度 事業報告 | (議長解任) |
| (2)令和6年度 会計報告 | 10 全国公立小・中学校女性校長会役員紹介 |
| (3)令和6年度 監査報告 | 11 地区幹事紹介 |
| (4)新役員推薦・承認 | 12 閉会のことば |
| (5)その他 | |



令和6年度 役員・運営委員



■ 歓送迎会

於:東京ガーデンパレス 平安の間

- 1 開会の言葉
- 2 会長 挨拶
- 3 来賓紹介
- 4 令和6年度ご退任校長 挨拶
- 5 新任校長紹介
- 6 ご歓談
- 7 閉会の言葉

総会終了後には歓送迎会を開催しました。歴代の会長先生やご勇退されたOGの皆様をお招きし、夏の東京大会の準備の話も賑やかに、新任の校長先生方も多数参加しておいしい食事を囲んで、親しく語り合いました。

懇談会風景



東京大会実施要項

目 的

全国公立小・中学校女性校長会は、全国の公立小・中学校の女性校長をもって組織し、会員相互の連携を図り、研究を深めることにより、真の男女共同参画をめざして女性校長の地位及び職能の向上を図り、学校教育の振興に寄与することを目的としています。

本大会は、全国の会員が一同に会し、連携を図る貴重な機会であり、教育の今日的課題に基づく実践の相互交流により研修を深め、会員各校の学校経営をさらに充実・発展させるものです。

今日、我が国はかつてない大きな変革の中にあり、学校が解決しなければならない課題は山積しています。その中でも、社会の様々な課題を主体的に解決していく力や豊かな国際性を身に付け、Society5.0時代の世界に羽ばたき、グローバルに活躍する人材を育成することは、喫緊の課題です。このような状況を深く認識しつつ、校長の職責の重大さを自覚し、学校経営能力を高め、学校教育のさらなる充実を図ることが私たち校長の責務です。

国際都市、東京において、第75回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会を開催します。研究主題等に基づき、参加者一人一人が知恵を寄せ合い、学び合うことで、自ら未来を切り拓き、共によりよい社会を創る子供の育成に取り組みます。

大会主題

自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る子供を育む 学校教育の推進

～多様性を認め合い 持続可能な社会の創り手として 未来を創造する力を育む学校経営～

参加者

全国公立小・中学校女性校長

開催地

東京都目黒区

日 程

大会1日目 令和7年7月31日(木)

9:10	9:30	11:00	13:00	14:00	15:00	16:00	16:50	18:30	20:30
受付	理事会	受付	開会式	総会	講演	記念講演	移動・受付	懇談会	

大会2日目 令和7年8月1日(金)

9:30	9:50	11:50	12:15
受付	分科会・分散会	閉会式	

— オンライン準備

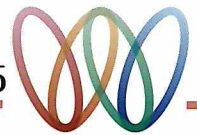
講 師

■講 演:文部科学省初等中等教育局 視学官

藤野 敦 様

■記念講演:株式会社サンリオエンターテイメント代表取締役社長 サンリオピューロランド館長

小巻 亜矢 様



分科会主題	分散会協議題	①提案者 ②司会者 ③記録者 ④指導助言者	会場		
第1分科会	「生きる力」を育む学校経営	担当都道府県 鳥取県	スター ルーム A		
		①鳥取市立 東郷小学校 池本 久美 鳥取市立 明治小学校 志和 智恵		②鳥取市立 倉田小学校 國政 裕恵	③鳥取市立 末恒小学校 山根 裕子
		◎指導助言者 東京都教育庁指導部 主任指導主事 鈴木 輝 様			
		担当都道府県 北海道・中学部		スター ルーム B	
①札幌市立 元町中学校 伊東 美智恵	②札幌市立 北陽中学校 東海林 裕子	③札幌市立 栄南中学校 井上 友美			
◎指導助言者 東京都教育庁指導部 主任指導主事 西 雅生 様					
第2分科会	教職員のウェルビーイングの向上を図る学校経営	担当都道府県 沖縄県	楓A		
		①石垣市立 新川小学校 大浜 公三枝		②石垣市立 白保中学校 仲地 みゆき	③石垣市立 石垣小学校 真玉橋 真由美
		◎指導助言者 東京都教育庁指導部 主任指導主事 小宮山 詠美 様			
		担当都道府県 群馬県		楓B	
①沼田市立 白沢中学校 阿部 かおる	②沼田市立 池田中学校 金井 綾子	③片品村立 片品小学校 小林 菊江			
◎指導助言者 東京都教育庁指導部 主任指導主事 小鍛冶 誠一 様					
第3分科会	新たな課題に取り組む創意ある学校経営	担当都道府県 奈良県	桜		
		①五條市立 五條小学校 延原 喜久子		②橿原市立 畝傍南小学校 井上 久世	③宇陀市立 大宇陀中学校 中山 晴美 大和高田市立 陵西小学校 川田 朋子
		◎指導助言者 東京都教育庁指導部 主任指導主事 濱田 昌也 様			
		担当都道府県 富山県		楠	
①富山市立 蛭川小学校 楞川 幸子	②富山市立 萩浦小学校 佐藤 寛子	③富山市立 宮野小学校 原田 郁美			
◎指導助言者 東京都教育庁指導部 主任指導主事 西尾 英里子様					
第2分散会	持続可能な社会の創り手を育む学校経営				

DAY 1 開会式



令和7年7月31日 ウェスティンホテル東京



文部科学省 初等中等教育局 視学官
藤野 敦 様



東京都知事
小池 百合子 様



目黒区長
青木 英二 様



全国連合小学校長会 会長代理
高瀬 智子 様



DAY 1 懇談会



DAY 2 分科会・分散会 閉会式



令和7年度 学校経営研究会

日時 令和7年12月6日(土) 午後2時00分～午後4時40分

会場 文京区立千駄木小学校

内容 1 研究主題 「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る 子供を育む学校教育の推進」

2 実践発表

(1)小学校 桑 まゆみ 校長

(2)中学校 竹田 幸恵 校長

3 東京大会報告

大会実行委員長 田中 明子 校長

4 講演

食生活アドバイザー アスリートフードマイスター 野菜ソムリエ 発酵食品ソムリエ

料理教室「Orange Kitchen-cooking studio」 主宰 田代 由紀子 様

実践発表

(1) 羽村市立栄小学校 桑 まゆみ 校長

「誰一人取り残すことなく」・子供を取り残さないともに学べる環境づくりの工夫

◎学校における多様な取り組みと成果

- 地域資源(あんず・みかん)の活用や企業連携(ファンド)、環境づくり、個別最適な学びの支援に取り組んでいる。
- これらの取り組みにより、児童の学習意欲・自己肯定感・学校全体の心理的安全性が向上している。
- 計算タイムの実施や教職員の研修・交流による実践力向上に力を入れている。

◎特別支援教育における取り組みと課題

- 特別な支援を要する児童だけでなく、全ての子供に心理的安全性と自己肯定感を高める環境形成。
- 教職員の理解と実践力向上の課題に、継続的な研修や事例研究、教職員間の情報共有を通じて改善。
- 環境づくりをアップデートし、持続可能な取り組みを目指すことも重要視。

◎学校経営における展望

- 子供一人一人の良さと可能性を引き出す教育の実践を目指す。
- 子供が安心して過ごし、学び、成長できる環境整備が今後の課題である。



(2) 八王子市立横山中学校 竹田 幸恵 校長

「子供の小さなSOSを見逃さない「チーム学校」としての学校経営」

◎学校の特徴

- 教育目標を基盤とした生徒の健やかな心身の育成を重視。
- 令和4年度は学力向上、令和5年度は不登校・心身の疲労軽減を重視。
- 地域社会との連携を重視し、組織的な教育相談、生徒会活動、小学校との連携、域社会へのアウトリーチ支援などに取り組んでいる。
- スクールカウンセラーの活用、不登校拠点校としての役割、小中一貫教育の推進に力を入れている。

◎具体的な取り組み

学校医による健康相談、スクールカウンセラーによる個別面談、教室への同行支援、親カフェの開催、特別支援委員会の活動、外部機関との連携、防災フェスタの実施など、SOSへの対応策を講じている。

◎今後の課題

- 生徒の社会貢献の場の拡大、不登校支援環境整備、外部機関連携、学力向上と特別な配慮の両立。



東京大会報告

第75回 全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議会

東京大会実行委員長 青梅市立第七中学校 田中 明子 校長

◎大会について

令和7年7月31日、8月1日の2日間にわたり、全国の女性校長697名、来賓11名、梅の実会・副校長・主任教諭75名、合計843名が参加。多様性を認め合い、持続可能な社会の作り手となる学校経営をテーマにした研究。



◎大会での新たな取り組み

2次元コードを活用した入場、ペーパーレス化、協賛企業の出店、オンデマンド配信、クラウドアプリを活用した意見集約、オンライン閉会式、マイバックの推奨 など

- 参加者からの評価は概ね高評価で、運営、特別講演、分科会分散会、協賛企業の出店、ペーパーレス化、マイバックの推奨などが特に評価された。
- 新たな視点や勇気、自己肯定感の向上など、多くのポジティブな意見が寄せられ、今後の学校教育の充実につながる事が期待された。

講演

演題 「自分を知り、自分を整える校長世代のための栄養セルフマネジメント」

講師 田代 由紀子 様

◎講演の要旨

自己理解と栄養セルフマネジメント：

- 校長として多用でも、自分を知り、自分を整えることが重要である。
- 健康管理は食事、運動、睡眠のバランスが不可欠であり、特に職務における栄養管理が重要。

栄養バランスとPFCバランス：

- 健康的な食事は、主食、主菜、副菜をバランス良く摂取すること。
- 炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルといった5大栄養素、そしてPFCバランス(炭水化物、タンパク質、脂質)の適切な摂取が重要である。

血糖値スパイクとラベル読みの重要性：

- 健康診断の重要性を訴え、血糖値スパイクの概念を解説。
- 食品のラベルを読み、原材料や栄養成分を把握することで、より健康的な食生活を送れる。

調理の多様性と時短の工夫：

- 多用な先生向けに、既存の食材をアレンジして新しい料理を作る方法を紹介。
- 時短レシピの活用や、食材の使い回し、調理工程の簡略化など、効率的な調理の工夫を提案。

◎食育と先生の役割

- 食育の重要性を訴え、先生が健康的な食生活を実践し、子どもたちに食に関する知識を教える。
- 学校全体で食育を推進し、子どもたちの健康をサポートすることが重要。

◎家庭での食卓の豊かさ

- 食卓に彩りを添える工夫や、手軽にできる料理の提案を通じて、食卓を豊かにすることが重要。



懇親会

「一合」 西日暮里 17:30～19:30

学校経営研究会終了後に懇親会を行いました。講師の先生も参加され、食の大切さを再確認しつつ、歓談を通して親睦を深めることができました。



1～3年次の教員に関するアンケート(結果報告)

1 アンケートの目的

東京都公立学校教員採用試験の受験者が低迷する中、教員として歩み出したものの、多忙な毎日や対応に翻弄され、困惑している教員が各校にいる。子供への指導だけでなく、保護者または職場の人間関係等に悩みを抱える人も少なくない。そのため、就職3年以内での離職率も1割を超えるなど、深刻な課題がある。また、多忙を極める仕事の中で、OJTを通して指導・育成していくことも日常の中で難しい場面も多い。共に子供を育成していく立場として、同じ目的をもち、教員として互いに高め合いながら、より充実した教育活動を実現させたい。そこで、1～3年次の年次の浅い教員を対象に、子供や職場との関係性や内在する自己の思い・考えについて知ることにより、課題だけではなく彼らのもつ強みやよさ、願いを受け止め、心理的安全性の高い職場づくりの手立てとしたい。

2 実施対象 オンラインフォームによる調査・回答

3 実施期間 令和7年9月～10月

4 回答数 1,222人

【内訳】 小学校:743 中学校:441 義務教育学校:30 小中一貫校:7 区立特別支援学校:1

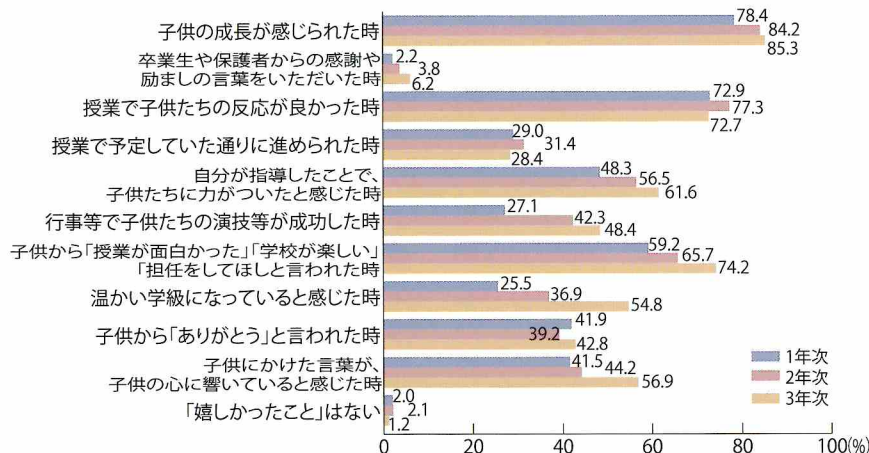
5 年代 20代:1,001 30代:137 40代:54 50代以上:30

6 性別 男性:601 女性:621

7 職務経験年数 1年次:458 2年次:423 3年次:341

8 アンケート結果

1 教員として子供や保護者等と接する中で感じた、「嬉しかったこと」は何ですか (複数回答可/その他:具体的に記述してください)



「子供の成長が感じられた時」「授業で、子供たちの反応が良かった時」「子供たちから『授業が面白かった』『学校が楽しい』『先生に(あなた)に担任してもらいたい』などの言葉を聞いた時」など、子供の成長や自身の指導の成果を実感したり、自身の関わりについて、子供から評価を受けたりすることに喜びを見出している。自分の存在が誰かの役に立っているという自己有用感がやりがいに繋がっていると考える。子供との直接的な関わりの中で喜びを感じていることから、学校経営において、このような成功体験を意図的に作り出す機会を増やすことが重要である。

2 同じ学校の先生方や他校の先生方(1～3年次も含む)と接する中で感じた、「嬉しかったこと」は何ですか (複数回答可/その他:具体的に記述してください)

「温かい言葉をかけられた時」「管理職や先輩教員に気にかけてもらった時」、また「授業等で自分の指導について褒められた時」「日常の何気ないおしゃべりができた時」などが最も多く、心理的安全性が保証されることが、教員の安心感に繋がっていることがわかる。このことから、人間関係における「安心感」や「居場所」を求めていることが推察される。組織の一員として「受け入れられている」と感じるため、日々の声かけはとても大事である。教員が自己有用感や自己肯定感を感じるために、授業等の指導のフィードバックを丁寧に行うことが大事である。「親身になって相談に乗ってもらえた時」や「自分の思いや考えを理解してもらえた時」「先生方と協力して何かを成し遂げた時」も上位を占めることから、年次の浅い教員にも伝わるような具体的な言葉を使いながら伝え、不安を解消できるようなアドバイスをすることが安心感や次への飛躍を生むと考える。また、業務上のチームの一員として、組織全体で目標を達成する喜びを体験させることも重要である。このように、年次の浅い教員が孤立することなく、精神的な面でも支えを求めている現状に丁寧に応えていくことは多忙な日常の中では難しいこともあるが、管理職としてサポートしていくよう努める必要がある。

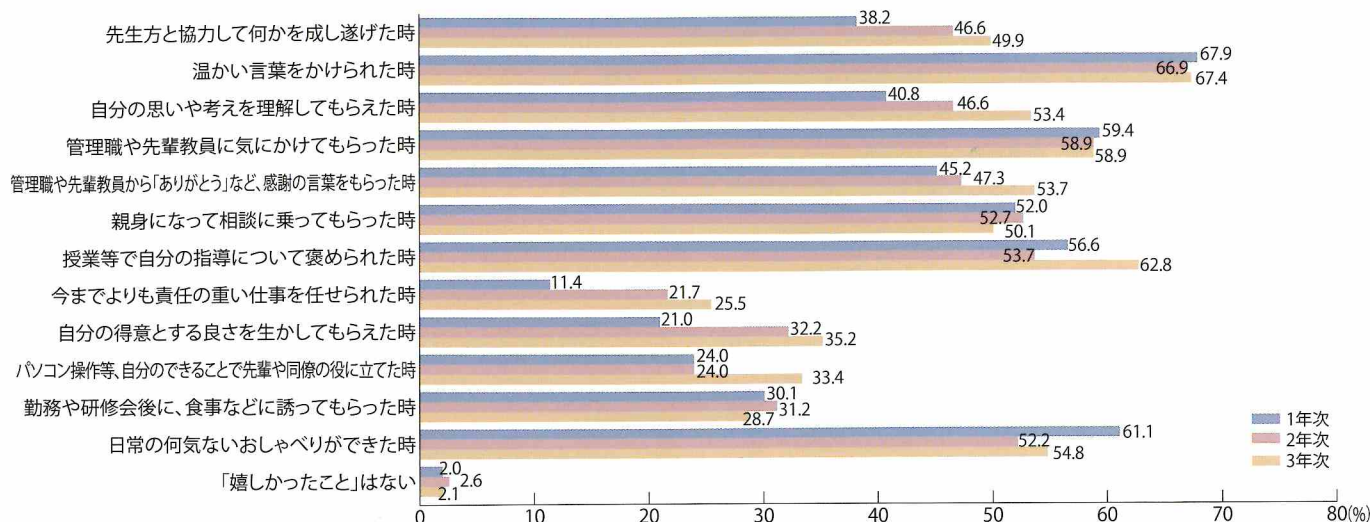


図1 勤務や研修会後に、食事に誘ってもらった時に「嬉しい」と感じた経験(年次別)

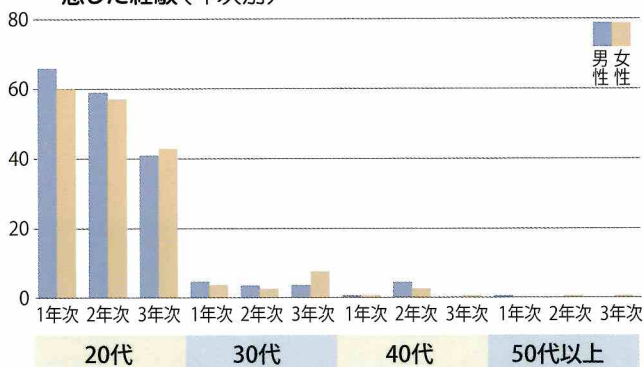


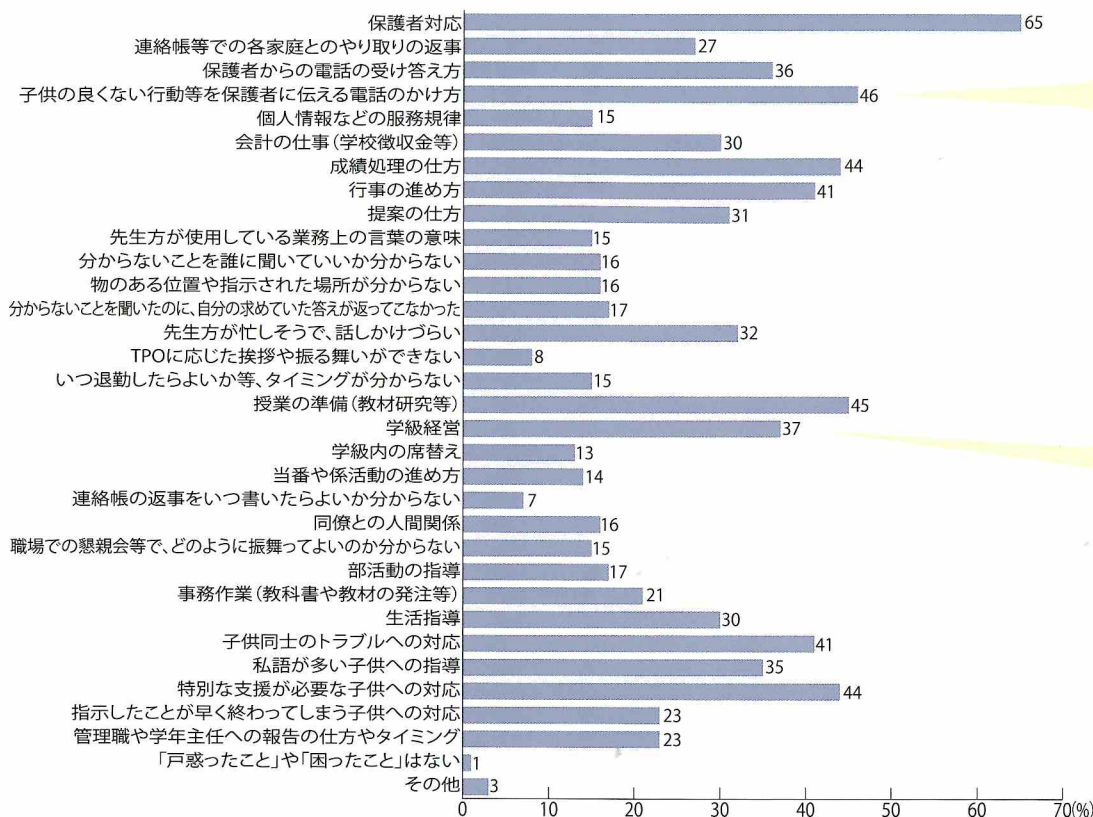
図2 教員と接する中で感じた、「嬉しかったこと」(年代別)

この中でも注目すべき点は、「勤務や研修会後に、食事などに誘ってもらった時」の回答の中で、図1のように年代別に大きく差があることである。年次を問わず、男女ともに20代が圧倒的に多い。これは、自分のことだけに集中し行動できる年代なのかもしれない。また、現在の20代が高校生や大学生の頃、コロナウィルス感染症の拡大による影響で、他者との接触が思うようにできなかったため、このように食事や飲み会を通して本音を出し合えるような場を経験していなかったとも推測される。そのため、職場ではなく、気の置けない場所や雰囲気での関わりを求めているのかもしれない。また、図2の年代別では、20代が「温かい言葉をかけられた時」「管理職や先輩教員に気にかけてもらった時」と最も多く、続いて「親身になって相談に乗ってもらった時」と、周りから自身が承認されたり、配慮や支援されたりすることを求めている。一方で、30代は「パソコン作業等、自分のできることで先輩や同僚の役に立てた時」、40代では「自分の得意とする良さを生かしてもらえた時」に喜びを感じている。これは、これまでの社会人経験等で培ってきた力を、教育現場でも発揮したいということであると考える。校務分掌等を通じて、個の強みを生かすことにより、自己有用感が生まれてくると推察する。

3 教員として働いている中で、「戸惑ったこと」や「困ったこと」はありましたか (複数回答可/その他:具体的に記述してください)

業務遂行上の課題としては、「保護者対応」が最も多く、次いで「子供の良くない行動等を保護者に伝える」と、経験が浅い教員にとって、保護者への説明等の関わりが大きなストレス源になっていることが推測される。また、「授業の準備」や「成績処理の仕方」「行事の進め方」も件数が多く、十分な教材研究の時間確保だけではなく、先輩教員が経験の浅い教員の困り感に寄り添って、丁寧に教えることが必要である。授業等の指導だけではなく、学校の様々な取り組みに対しても、教員として能動的に働きかけた経験がない。そのため、新規採用者の立場に立ったわかりやすい言葉かけやアドバイスに配慮をしていく必要がある。子供の対応への課題としては「特別な配慮が必要な子供への対応」が多い。「子供同士のトラブル」も件数があることから、特別支援教育に関する専門的な知見を広めるだけではなく、組織的な対応ができる環境を構築することも、教員の心理的な安定感を生み出すのかもしれない。また、人間関係上の課題も、「先生方が忙しそうで話しかけづらい」と困り感がある。疑問を一人で解消できず、抱え込んでしまったり、ミスやストレスの増加により意欲低下に繋がったりしないよう、指導教諭やメンター制度をうまく活用しながら、年次の浅い教員と向き合い、思いを受け止め、一緒に課題を解決できる時間の確保が必要と考える。

1～3年次の教員に関するアンケート(結果報告)



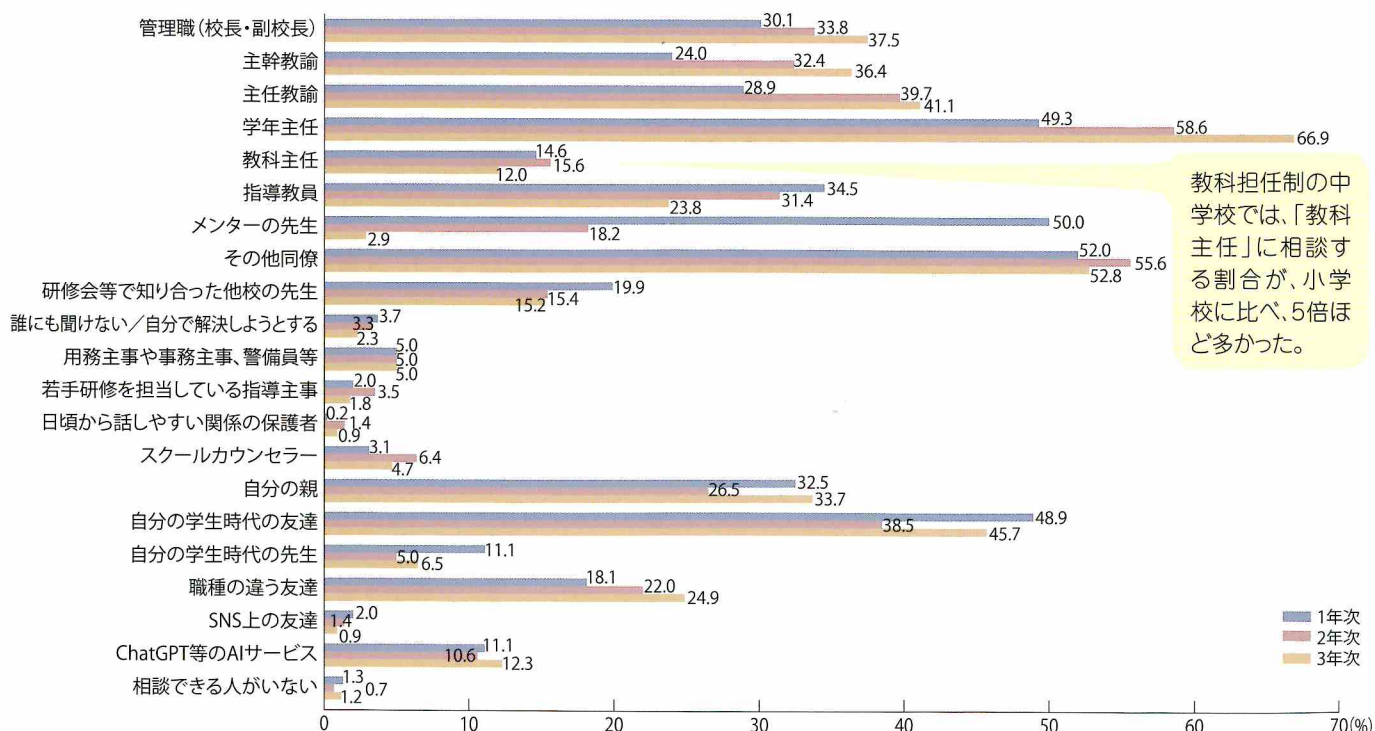
20代では、「保護者からの電話の受け方」(「子供の良くない行動等を保護者に伝える電話のかけ方」)が非常に高い。生活の中でメールやSNS等でのやりとりに慣れているため、直接相手と話す電話というのはハードルが高いのかもしれない。

一日を通して子供と過ごす時間の多い小学校では、「学級経営」に困っている割合が、中学校に比べ、15%も多かった。多様化している子供の実態等も影響していると考ええる。

4 あなたが仕事のことで相談しやすい人は誰ですか

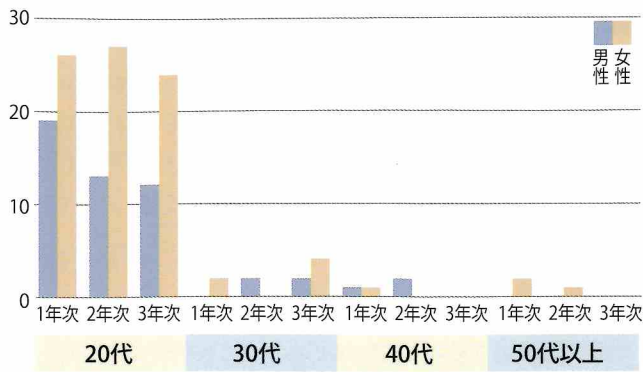
(複数回答可 / その他:具体的に記述してください)

「学年主任」「その他同僚」が最も多く、日常的に関わりが深い教員に相談しやすいと考えていることがわかる。学年主任については、日々の業務や学級経営等について、具体的なアドバイスを提供できる存在であり、同じような課題を共有しているため、自身の課題についても共感や助言を求めやすいと思われる。その他の管理職や主幹教諭、主任教諭などは、学年主任や同僚に比べると低い傾向にある。これは、役割上の上下関係や「忙しそう」という印象が心理的なハードルになっているとも考えられる。「メンターの先生」への相談があまりないことも、制度として十分に浸透しておらず、組織の中で機能していなかったり、形式的な関係に止まっていたりする可能性が考えられる。一方、心理的な専門家であるスクールカウンセラーへの相談よりも「Chat GPT等のAIサービス」に相談する人が多いという結果になっている。



教科担任制の中学校では、「教科主任」に相談する割合が、小学校に比べ、5倍ほど多かった。

図3 ChatGPT等のAIサービスに相談している



AIは「聞きたい」と思ったその時に気軽に答えてくれる存在であり、誰にも聞けないことや、人に相談することを躊躇してしまうような内容でも、誰に知られることなく、自分に対し肯定的かつ冷静に答えてくれる。相手の感情も読み取りながら話す必要もないため、ハードルが低く、ストレスなく相談できる相手である。前出の質問でも、忙しそうな様子から先生方に話しかけづらいと感じていることも影響しているのかもしれない。利用状況については図3のように、男女や年次を問わず、圧倒的に20代が多い。AIは、この世代以降にはなくてはならない存在になるのかもしれない。

図4 相談しやすい人(男女別)

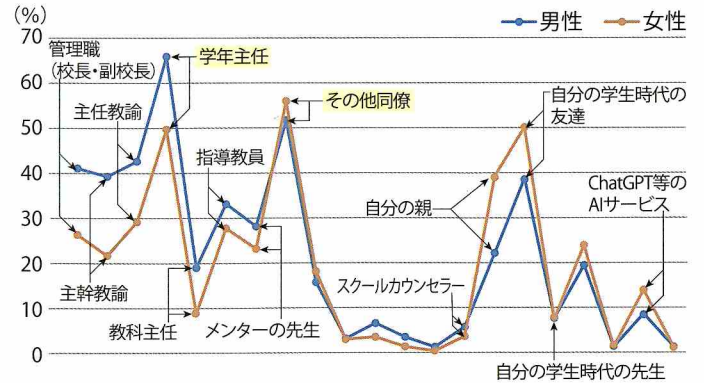
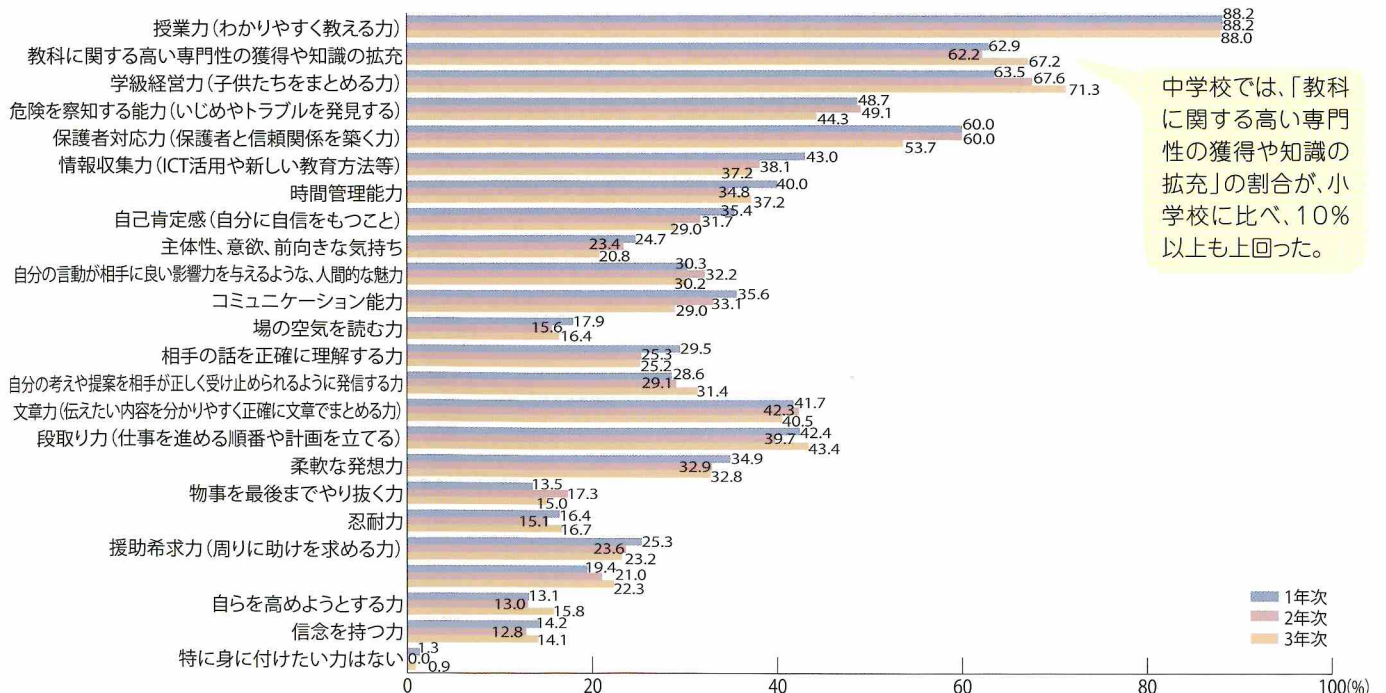


図4の男女別では、女性より、男性の方が「管理職」や「主幹教諭」、「主任教諭」、「学年主任」、「指導教員」と仕事上の上司に相談している。一方、女性は「自分の親」や「学生時代の友人」など、自分との関係が近い、あるいは関係性が深い人に悩みを打ち明けていることがわかった。仕事の課題を職場内の人間関係の中で解決していこうとする男性と、仕事から離れたところで解決の糸口を導き出そうとする女性とでは、将来の学校経営に深く携わる管理職を目指す意識の違いもあるのかもしれない。

5 今、自分に必要だと思う力や身に付けたい力は何ですか

(複数回答可 / その他:具体的に記述してください)

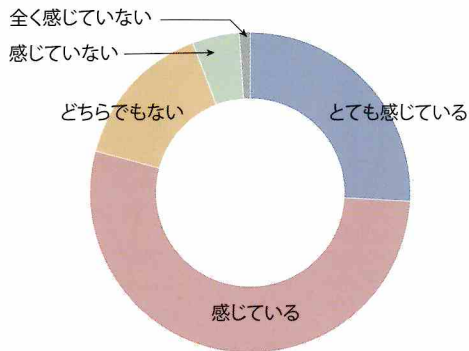
「授業力(わかりやすく教える力)」が最も多く、次いで「学級経営力(子供たちをまとめる力)」や「教材に関する専門性の習得や知識の拡充」となっている。これらは、日々、子供と対峙していく中で感じるものだと思う。これらの力を付けるため、十分な時間の確保と日常の業務遂行の中で、気軽に相談できるような環境づくりが必要である。また、「保護者対応力(保護者と信頼関係を築く力)」も上位であることから、保護者対応については、前出の答えにもあるように、戸惑いや困難を感じており、喫緊の課題であることがうかがえる。孤立感を高めることなく、チームとして対応することにより、心理的な安心感を与え、OJTに繋げていくことも重要である。仕事上の課題としては「文章力(伝えたい内容をわかりやすく正確に文章にまとめる力)」や「段取り力(仕事を進める順番や計画を立てる力)」と、日常の多忙な業務を効率的に遂行するスキルに対し、不足していると思われる。これは、社会人として必要とされる力であり、就職前から準備可能であるとも言える。



中学校では、「教材に関する高い専門性の獲得や知識の拡充」の割合が、小学校に比べ、10%以上も上回った。

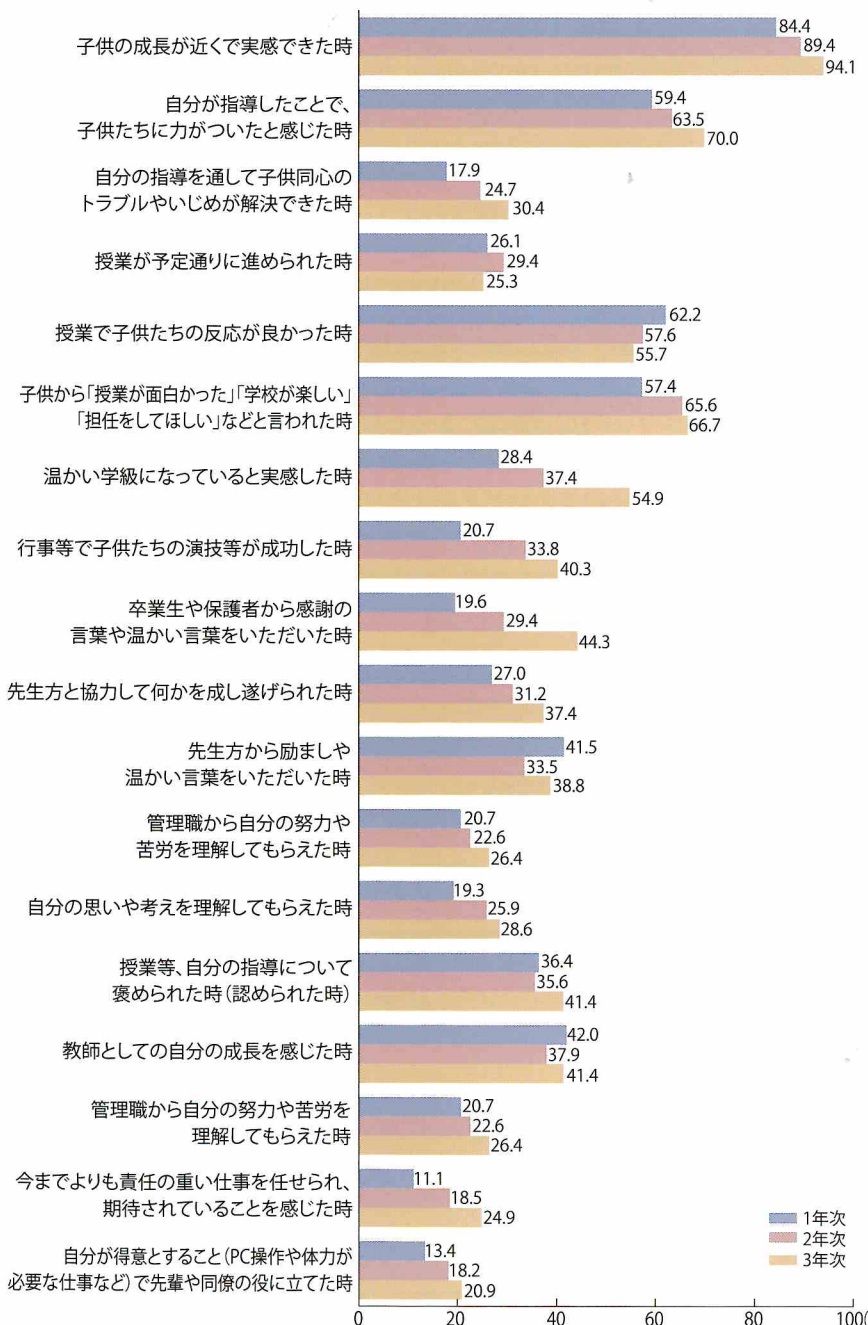
1～3年次の教員に関するアンケート(結果報告)

6 今、あなたは教員として「やりがい」を感じていますか (単一選択)



この設問は、年次の浅い教員が仕事に対してどれほどの仕事への熱意や貢献意欲をもっているのかを知る上で重要である。「とても感じている」「感じている」と肯定的な思いが全体の8割近くを占め、多くの教員がやりがいを感じていることがわかる。一方で、「どちらでもない」「感じていない」「全く感じていない」と回答した教員は約2割存在している。

7 「とても感じている」「感じている」と回答した方:どんな時に「やりがい」を感じますか (複数回答可/その他:具体的に記述してください)



この設問での回答は以下の3つのカテゴリーに分けて理解することができる。

1. 子供との関わり

「子供の成長が近くで実感できた時」が最も多く、「自分が指導したことで、子供たちに力が付いたと感じた時」「子供たちから『授業が面白かった』、『学校が楽しい』、『先生(あなた)に担任してもらいたい』などの言葉を聞いた時」「授業で、子供たちの反応が良かった時」と、非常に高い件数となっている。これは、教員としての喜びを感じ、自身の存在意義を最も強く感じさせていることがわかる。

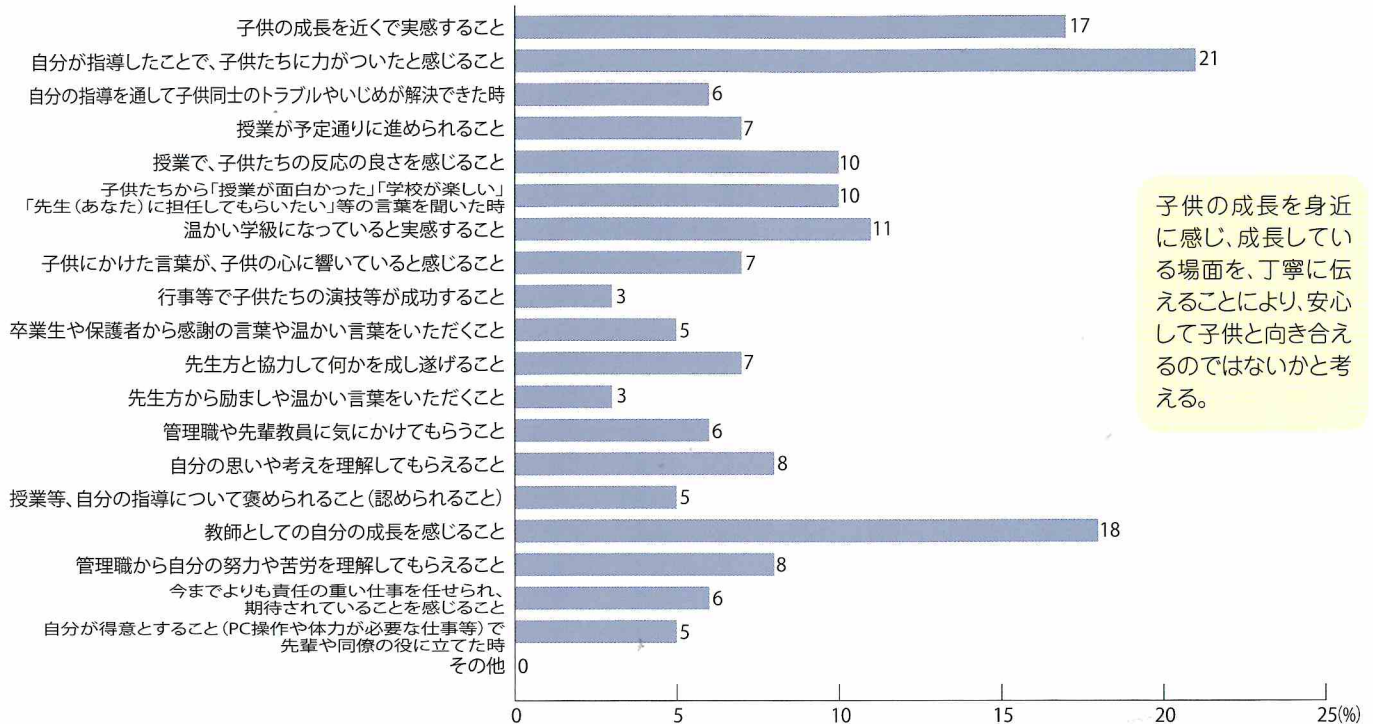
2. 自己の存在に対する周囲からの承認

「先生方から励ましや温かい言葉をいただいた時」「授業等、自分の指導について褒められた時」等から、職場での人間関係の中で自身が承認されていると感じた時に、仕事へのやりがいを感じていることがわかる。教員として自身が周囲から理解され、認められているという実感が、教員のモチベーションに繋がっていると言える。

3. 自己の成長の実感

「自分の成長を感じた時」の回答が多かった。これは自身が日々の業務を通じて一歩ずつ成長していることを実感することで、自己を承認し、教員として将来への希望や意欲に繋がり、やりがいを感じているものと思われる。

8 「感じていない」、「全く感じてない」と回答した方:「やりがい」を感じるには何が必要だと思いますか
(複数回答可/その他:具体的に記述してください) (78人中)



子供の成長を身近に感じ、成長している場面を、丁寧に伝えることにより、安心して子供と向き合えるのではないかと考える。

この設問では、やりがいを感ぜられない理由を挙げている。この回答も前出と同様、以下の3つのカテゴリーに分けて理解することができる。

1. 子供との関わり

「自分が指導したことで、子供たちに力がついたと感じること」「子供の成長を近くで実感すること」が多い。これは自身の関わりから子供の成長や良い変化を感じることができず、教員としての意欲が低下していると考えられる。

2. 自己の存在に対する周囲からの承認

「自分の思いや考えを理解してもらえること」「管理職から自分の努力や苦勞を理解してもらうこと」が多く、「先生方と協力して何かを成し遂げること」「管理職や先輩教員に気にかけてもらうこと」と自身の指導や業務を遂行している中で、自分の存在を気にかけ、自己理解してもらいと望んでいることがわかる。また、他の先生方と業務の中で関わりをもち、共に達成感や満足感、充足感を味わいたいと願っていることもうかがえる。

3. 自己の成長の実感

「教師としての自分の成長を感じることに」の回答が多かった。これは日々の業務の中で、子供や保護者、同僚、管理職から認められているという体感がないため、自己有用感を感じることができず、自身の教師としての存在意義についても肯定的な見方ができていないと推測される。また、その他の意見がこの設問では突出して多く、「他の先生方との教育観の相違」「制度や待遇への不満」「自己実現の難しさ」が挙げられた。特に着目すべきは、「自己実現の難しさ」である。自分の良さや経験が発揮されないことや、教師としての成長を実感できないこと、また、管理職から自分の努力や苦勞を理解してもらえないことにより、自己有用感を感じられない現状がうかがわれる。管理職として、日頃から教員をよく観察し、弱点だけではなく良さや強みを見出すことも大切である。そのポジティブな側面を生かして、組織運営に役立てていきたい。

1～3年次の年次の浅い教員のよさや強みを生かし、心理的安全性の高い職場づくりのために

実際の学校現場で自身が教師として教育を与える立場となった際、想像していたことと違ったり、戸惑ったりする場面があり、熱意はあるものの、本来の自身の良さが出し切れていない現状もあると思います。その困り感をキャッチし、受け入れ、一緒に考えてあげられれば、教員の不安を軽減し、安心して仕事に従事できるのではないのでしょうか。管理職として各教員を観察する視点を替えることも大切です。一人一人を丁寧に観察し、欠点だけに着目せず、誰もがもつ「よさ」や「強み」に目を向け、教員が生き生きと活躍できる職場づくりを構築していくことが、教員の自己有用感を生み、心理的安全性の高い職場をつくるのだと考えます。

令和7年度 東京都公立小・中学校女性校長会 活動報告

4月10日(木)	定例 役員・運営委員会 令和7年度 総会準備	世田谷区立弦巻中学校
5月18日(日)	令和7年度 総会	東京ガーデンパレス
5月26日(月)	東京大会第8回運営委員会	日野市立日野第一小学校
6月 5日(木)	定例 役員・運営委員会	東久留米市立第五小学校
6月 7日(土)	全国教育女性連盟研修会、総会	新宿アイランドタワー
6月15日(日)	「東京梅の実会」総会・研修会、懇親会	アルカディア市ヶ谷
6月24日(火)	東京大会第6回実行委員会	日野市立日野第一小学校
7月19日(土)	全国公立小・中学校女性校長会本部役員と東京都全国理事との会	全日中会館
7月30日(水)	東京大会第7回実行委員会	渋谷区立加計塚小学校
7月31日(木)	第1回全国公立小・中学校女性校長会理事会及び	
8月 1日(金)	第75回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会東京大会	ウェスティンホテル東京
8月19日(火)	学校経営研究会準備(研修部)	新宿区立愛日小学校
10月 2日(木)	定例 役員・運営委員会	オンライン開催
11月25日(火)	学校経営研究会準備(研修部)	文京区立千駄木小学校
12月 6日(土)	学校経営研究会・懇親会	文京区立千駄木小学校
12月20日(土)	全国公立小・中学校女性校長会本部役員と東京都全国理事との会	全日中会館
1月10日(土)	「東京梅の実会」研修会	新宿区立四谷中学校
1月16日(金)	定例 役員・運営委員会	オンライン開催
1月17日(土)	第2回全国公立小・中学校女性校長会理事会	アルカディア市ヶ谷
2月 7日(土)	紫苑の会	港区立青山中学校
2月12日(木)	定例 役員・運営委員会	東久留米市立第五小学校
3月27日(金)	定例 役員・運営委員会 広報誌「薫風」第8号発行(広報部)	東久留米市立第五小学校

令和7年度 東京都公立小・中学校女性校長会 役員・運営委員一覧

会 長	古 矢 美 雪	(東久留米市立第五小学校)
副会長	小 川 真由美	(日野市立日野第一小学校)
	田 中 明 子	(青梅市立第七中学校)
	内 田 かほ里	(東久留米市立第七小学校)
	佐々木 希久子	(港区立青山中学校)
	内 田 康 予	(文京区立柳町小学校)
	小 菅 みちる	(大田区立石川台中学校)
書記	島 田 文 江	(府中市立四谷小学校)
	山 本 美智代	(青梅市立新町中学校)
監査	渡 邊 和 子	(府中市立南町小学校)
	山 田 美 鈴	(練馬区立石神井中学校)
全国理事	内 田 かほ里	(東久留米市立第七小学校)
	小 菅 みちる	(大田区立石川台中学校)
	小 川 真由美	(日野市立日野第一小学校)
全国中学校理事	佐々木 希久子	(港区立青山中学校)
	田 中 明 子	(青梅市立第七中学校)
研修部 部長	水 野 睦 子	(新宿区立愛日小学校)
副部長	梶 井 ひとみ	(あきる野市立五日市中学校)
広報部 部長	渋谷 里 美	(立川市立立川第五中学校)
副部長	西 田 佳 子	(葛飾区立末広小学校)
庶務部 部長	竹 田 幸 恵	(八王子市立横山中学校)
副部長	日 向 須真子	(板橋区立蓮根第二小学校)
会計 部長	岩 田 環	(品川区立山中学校)
副部長	中 村 祐 子	(檜原村立檜原中学校)
相談役	忍 足 留理子	(府中市立府中第二小学校)
	山 浦 桂 子	
	山 口 麻 衣	(文京区立千駄木小学校)
	加 藤 ユ 力	(世田谷区立弦巻中学校)
事務局	島 崎 一 江	
	山 浦 桂 子	



《 編集後記 》

令和7年度「薫風」が発行の運びとなりました。

アンケートにご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

また、発行にあたり、皆様方からいただいた温かいご指導、ご支援に心より感謝申し上げます。

令和8年3月

広報部長 渋谷 里美